

木津〈こつ〉の狸〈たぬき〉（今田町）

むかし、今田町木津の小高い山の中に、真蔵寺という古い小さい寺が建っていました。山の中だから、狸〈たぬき〉がたくさん住んでいました。

ある夏の暑い日、真蔵寺の坊〈ぼう〉さんが、すずしい部屋で昼寝をしていると、一匹のいたずら狸が出て来て、坊さんの頭を両手で持って、「ヨーイ、トタン。ヨーイ、トタン。」

と持ち上げては落とし、持ち上げては落としたからたまりません。

目をさました坊さんは

「コラー、いたずら狸め。」

と、逃げる狸を追いかけてきましたが、狸は山の中へかくれてしまいました。

二、三日して、また、坊さんが昼寝していると、さきの狸がやって来て、

「ヨーイ、トタン。ヨーイ、トタン。」

とやるので、坊さんは怒り、

「クソー、狸め、おれもやってやろう。」

と、ある日山へのぼって、狸のいる所をさがしあるきました。

すると、いたずら狸が木の根をまくらに、昼寝していました。坊さんは静かに近づき、狸の頭を持ち上げ、

「ヨーイ、トタン。ヨーイ、トタン。」

と落としました。狸はびっくりして逃げて行きました。

こんな事を、坊さんと狸はお互いにくりかえしていましたが、ある日、坊さんは大きな棒をもって昼寝している狸の頭を、「ガーン。」

と、たたきました。狸は怒って、

「わしは、頭を持って、『ヨーイ、トタン。ヨーイ、トタン。』しただけなのに、棒で頭をたたくなんてせつしょうな、うらむぞ。」

と、言いながら追いかけて来ました。坊さんは棒でたたいて、狸を殺し、持って帰って、村人と狸汁をして食べました。

その時殺された狸のおばあさんがやって来て、寺の戸のすき間からのぞき見て、

「うまいか、うまいか、ようこらえん、うらむぞ、うらむぞ。」

と、すごい声を出して、山へ帰って行きました。

しばらくして、狸の大群が村里に出て来てはいたずらをするようになりました。村の人々は困りました。坊さんは、

「これは、わしが悪かった。」

と後悔〈ごうかい〉し、殺した狸をねんごろに、とむらいました。

それからは、狸が悪い事をせぬようになったということです。

